

問 広域避難における 様々な課題は

答 国の「緊急時対応」で整理される



あべ こうし 議員

問 村民38000人の避難先は施設が足りないが、確保の見通しはどうか。避難用バス・福祉車両は台数が全く足りず先が見えないが、確保の見通しは。

答 避難先3市の中で全村民分の避難先確保の見通しが立った。避難車両は事業者の理解が肝要。県が運転手に対する研修や訓練への参加を呼び掛けている。

問 避難が困難な村民の把握状況と対策は。

答 要支援者の身体や精神面の状況、村外へのバス移動に問題がないかを職員が個別訪問して確認している。バス

移動が困難な方は放射線防護対策を講じた施設で屋内退避し、福祉車両が整い次第、避難先の施設へ搬送する想定。個別避難計画を作成する中で実効性を高めていきたい。

問 そのほかの課題とその解決策は。実効性はどうやって検証するのか。

答 交通渋滞、混乱が考えられるが、国がまとめる「緊急時対応」で整理されると認識。実効性向上のためには住民の初動の理解が重要。周知を進める。



最近の東海第二原発（12月11日撮影）

問 オーガニック給食導入の可能性

答 全国オーガニック給食協議会参加



むらかみ たかし 議員

問 子どもたちの健やかな発育、健康の維持体力の推進など学校給食の役割はとも重要な役割は。安全な食材を提供するオーガニック給食の導入と学校給食の無償化について伺う。

答 オーガニック食材を使用した給食提供の可能性を検討する。無償化は、国や他の自治体の動向を注視しながら検討していく。

問 地域計画策定に向けた地域座談会を活用し、有機栽培の推進や有機農産物の認知度を高めることはどうか。

答 有機栽培を実践する農業者やJA常陸をはじめとする関係者と一緒に考えていく。

問 ほしほしも残渣の再資源、利活用は

答 資源循環モデル形成支援を利用

問 原料のサツマイモの約3割は破棄されているが利活用は。

答 当該事業の進捗状況を注視し、先進事例等の情報を収集し残渣対策や利活用等の有益な情報提供に努めていく。



ほしほしも残渣を載せたトラック